

この記事が農業農村開発の技術の定義を説明した。そして、筆者が本人の体験に基づき、農業農村開発の技術の推進、実施方法とその影響について紹介した。

まず、農業農村開発の技術とはなんですかと考えると、この長い単語が「農業農村開発」と「技術」2つの単語に分けることができる。農業農村開発の定義は農業の生産力と農村の生活環境に関わるすべての発展である。技術の定義は自然に人為を加えて役立つ手段である。すなわち、農業農村開発の技術が農業および農村を開発するための手段と定義される。

この手段を見つけるため、人々の本音を把握する必要がある。人の生活のパターンは、風土と歴史に影響され、文化と文明によって、本音にも大きな差がある。本音を正しく把握するため、文化をしっかりと理解する必要がある。

筆者の幼少期が農家で過ごしていたので、昭和時代の農家の共同労働という作業形態を体験した。その後、農業機械の導入によって、農家の作業形態が劇的に変化し、農家の生活パターンも何でも屋さんから専業に変わり、筆者も分家してなく普通に大学に進学した。

大学で農業工学を学んだ筆者は農業工学が一体何の学科でしようかって考え始めた。理学か、工学か、それとも政治学に近いのか、その時面白みを感じなかったが、自分の故郷が開拓建設事業の受益地のことを知ってから、農業土木に少し興味になった。大学に就職して、より大局を俯瞰し、農業事業を理解した。農村農業開発が農家のためではなく、国民のためである。

筆者が海外進出も始まり、ロジや人間関係の重要性については海外調査の経験から学んだ。東南アジアの状況を見て、自分の幼少期を思い出しながら、幼少期の農家経験を活用して、現地の農家の気持ちをより深く理解し、農業農村で技術指導もできた。

農業技術の普及が力仕事を軽減し、作業の時間も自由にする長所がありつつ、環境の破壊や社会の混乱を招く恐れもある。そのバランスが一番難しいであるけど、技術の普及も地元の農業農村または社会的ニーズ次第であり、良い技術は、自然淘汰されて生き残るよう、筆者がそう考えた。

農業農村開発の技術者にとって、「農業農村社会の本音」と「適用可能な技術」との両方を身につける必要がある。筆者がそういう技術者の育成に努めている。